



女子医大ファミリーサポート

男女共同参画型NICU人材養成プログラム ファミリーサポートの取組

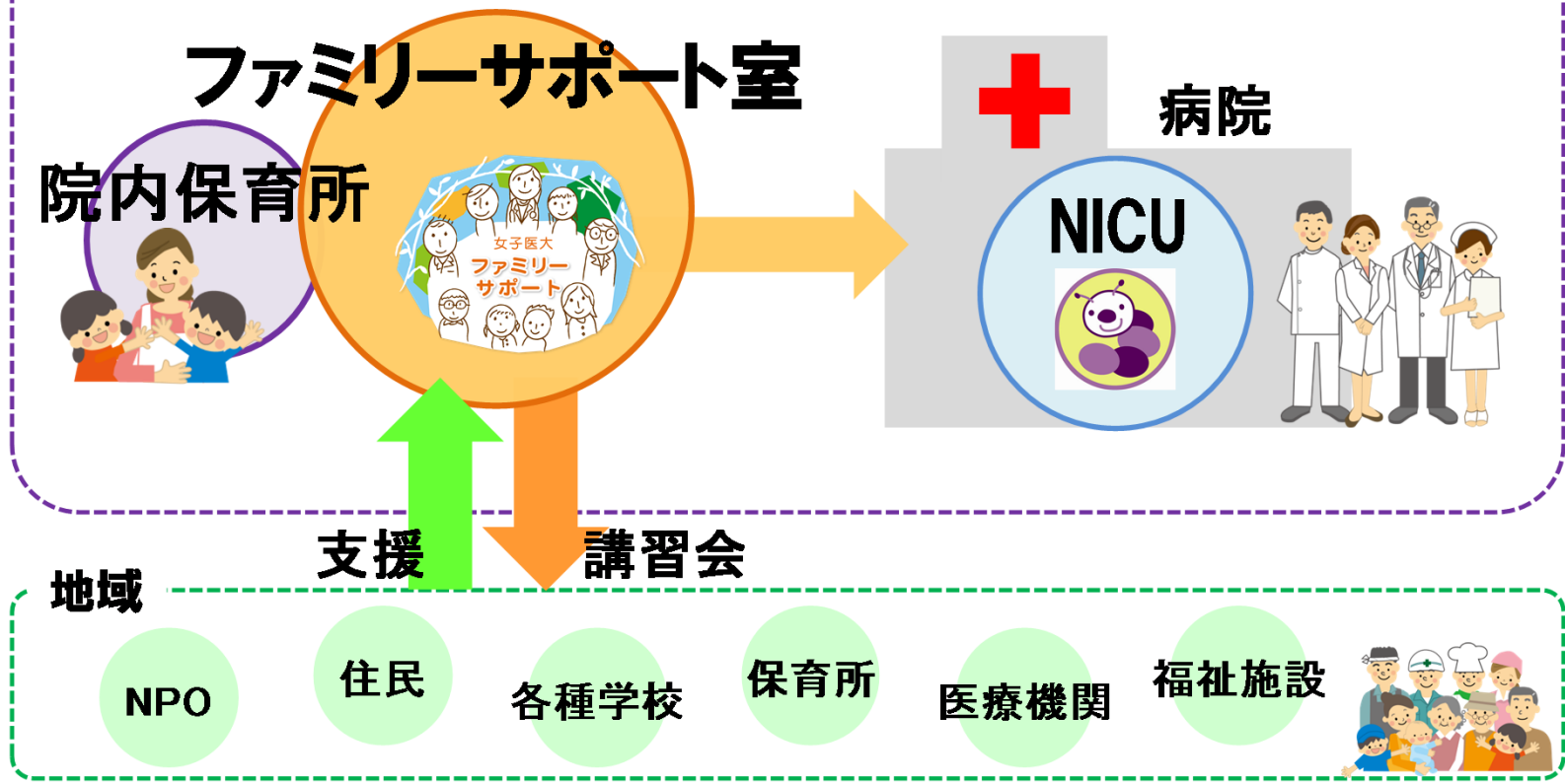
女性医師・研究者支援センター
東京女子医科大学医学部
衛生学公衆衛生学(一)教室
野原理子



文部科学省大学改革推進等補助金大学改革推進事業
 「大学病院人材養成機能強化事業(周産期医療に関わる専門的スタッフの養成)」

男女共同参画型NICU人材養成プログラムー地域とささえあう周産期医療ー

学校法人 東京女子医科大学



ファミリーサポートの仕組み

実際の活動は
どんな感じ？

女子医大職員



依頼・報酬

女子医大ファミリーサポート室



地域や父母会の方々



援助

依頼

提供

報告

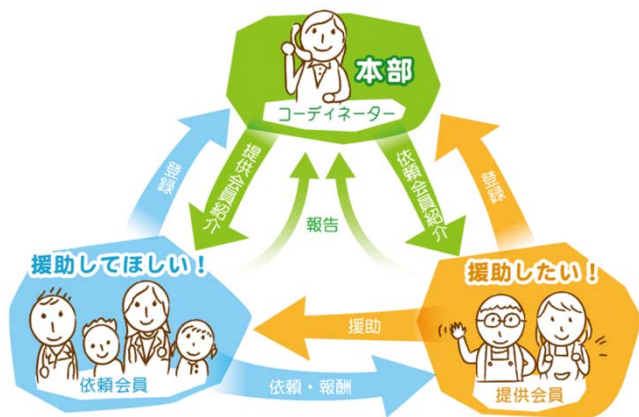
依頼

依頼





一時預かり保育の様子



事前打ち合わせ



保育園への送迎



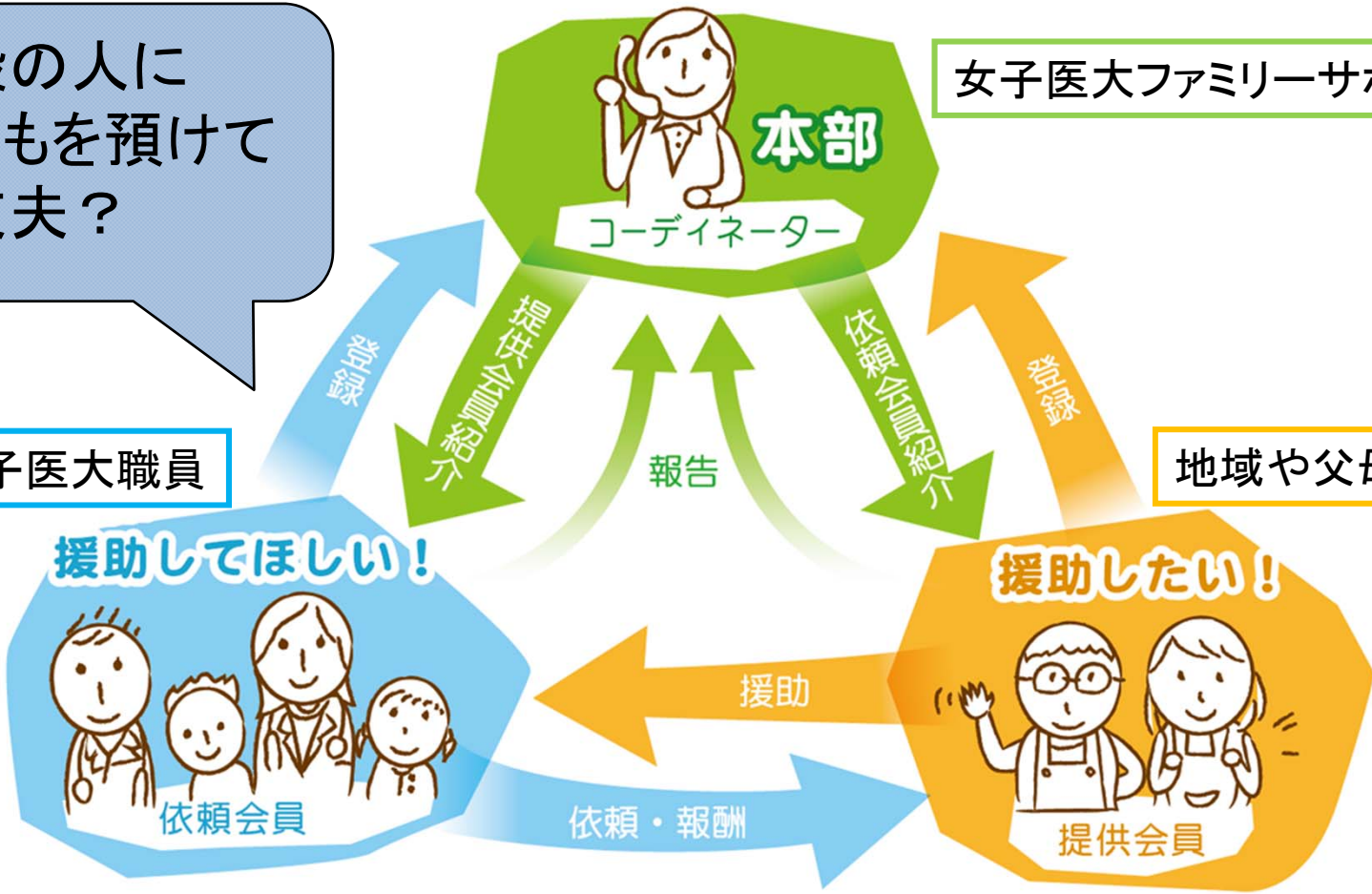
ファミリーサポートの仕組み

一般の人に
子どもを預けて
大丈夫？

女子医大職員

女子医大ファミリーサポート室

地域や父母会の方々





日	時間	内容	講師		会場	備考
12月1日 (水)	9:00～	受付 テキスト代 2,500円			大会議室 1F	事業の説明を行いません。 保育の心をわかりやすく理解できる絶好のチャンス 年齢をおって子どもの成長に合わせ、大切にしていかなければいけない事が解ります。
	9:30～10:00	開校式 オリエンテーション	ファミリーサポートアドバイザー			
	10:00～12:00	保育の心	城田タキ子氏	保育士		
	13:00～16:00	子どもの心の発達とその問題	湯汲英史 氏	(社)発達協会王子クリニック 言語聴覚士		
12月7日 (火)	10:00～12:00	子どものくらしとケア	小俣みどり氏	NPO 法人 子育てネットワーク・ピッコロ代表理事	中会議室 2F	子どもの日々の生活における支援について学びます。 子どもの成長と共に関係のある主な病気のお話です。
	13:00～16:00	からだの発達と病気	加藤郁子氏	東京女子医科大学病院 小児科医師		
12月9日 (木)	9:30～12:30	子どものあそび	大森靖枝 氏	劇団 風の子東京	大会議室 1F	子どもは「あそび」を通して日々学んでいます。まずは大人も楽しむことから・・・動きやすい服装で参加。 食べることは命の源です。離乳食、幼児食についても学びます。
	13:30～16:30	子どもの栄養と食生活	牧野伸恵 氏	栄養士		
12月15日 (水)	10:00～12:00	障害をもった子どもの預かりについて	木津奈津子氏	子ども発達センター	大会議室 1F	発達に遅れやつまずきのあるお子さんの通園施設を理解しコミュニケーションをとっていくために学びます。 安全第一、子どもの安全を守る大切なお話です。
	13:00～15:00	子どもの事故と安全	小俣みどり氏	NPO 法人 子育てネットワーク・ピッコロ代表理事		
12月17日 (金)	13:00～16:00	普通救命救急講習	牛込消防署		牛込消防署	正しい応急手当や心肺蘇生の基本を学びます。 動きやすい服装で参加。
12月20日 (月)	10:00～12:00	病児保育とリスクマネジメント	野原理子 氏	東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学(一)教室 准講師	中会議室 2F	病気のお子さんを預かるときの大切なポイントを押さえて話していただきます。 具体的アドバイスを話していただきます。 基本科目単位を履修すれば、女性労働協会認定「修了証」を発行。全国共通の基準カリキュラム。
	13:00～15:00	保育サービスを提供するために —相互援助活動の有効性—	小俣みどり氏	NPO 法人 子育てネットワーク・ピッコロ代表理事		
	15:00～16:00	修了式・修了証授与				
未定		病後児保育施設見学	東京女子医科大学 院内保育所病児保育室			病後児保育施設は預かるときの参考になります。

《講習会会場案内》

東京女子医科大学南別館大会議室(1階) 東京女子医科大学南別館中会議室(2階)

牛込消防署



「女子医大ファミリーサポート室」

NPO法人子育てネットワーク・ピッコロ委託

直通電話・FAX：03-5369-9075

代表電話：03-3353-8112 内線39911

平日9時～17時受付

申し込み締め切り：11月22日(月)17時まで



保育サービス講習会の様子



開校式



講義



救命救急実習



実地





保育サービス講習会の様子



事例検討



ワークショップ



修了式





保育サービス講習会 受講者の感想

地域に密着している病院の医療従事者へのサポートは必要だと思えます。安心して勤務できる体制を整えることが安心して病院にかかれるとも思えます。女子大の良いところを医療に反映してもらうためにも、子育てしながら勤め続けられる環境はすばらしいと思えます。

お医者さん不足、また、過剰勤務の実態の中で、安心して医療従事していただく為にも必要なことと思えます。

子育てをしながら仕事を継続する為の方のお役に立ちたいと思う。この制度は素晴らしいと思う。





市民公開講座(全体研修会)



H23.1.11

今後の子育て支援に求められるもの
—「みんなで子育てできる社会」のために
私たちにできることは?—

H24.3.28

子どもとの関わりの中でできること
~CAREプログラムのご紹介





スキルアップ研修会（グループワーク）



H23.2.9 提供会員として活動するための一般的な注意事項と守秘義務

H23.9.15 心構えとリスクマネジメント

H24.3.23 病児・病後児保育の概要と手順／事例から学ぶ病児・病後児保育





全体交流会



H23.5.14
劇団風の子
大森靖枝さんをお迎えして

H23.11.26
リコーダーカルテット
ミニコンサート



ファミリーサポートの構築

平成21年度
ニーズ調査
広報

平成22年度
ファミリーサポート室開設
提供会員育成
保育サービス講習会・スキルアップ研修会
市民公開講座(全体研修会)・全体交流会

平成23年度
依頼会員募集
一時預かり保育サービス提供
市民公開講座・中間報告

中間評価





「周産期医療に関わる専門的スタッフの養成」の取組概要及び中間評価結果

整理番号13

主担当大学東京女子医科大学

取組名男女共同参画型NPO法人養成プログラム

事業推進責任者

取組概要

国際的にも周

産期医療に従事できる

ことにより

せる。そのため

従事できる研修

性医師の復帰

ディカルの研修

援、効率的な研

と連携し、地域

う。研修終了後

中間評価結果

(総合評価) A

順調に進捗して

る。

(コメント)

総じて優秀であ

力としての底力

策を検討するこ

以下の点につ

○多くの医療従

ど)を展開し、地

出ている。○夜

個別子育て相談

周産期医療の

参加し、周産期

でも評価できる

○ホームページ

評価表、アンケート

女性医師継続

い。住民の医療

また、以下の点

に留意し、必要な改善策を講じることで、さらに成果・効果を得られることを期待する。

●周産期関係医師への指導手当等の支給については、今後具体的に取組まれることを期待したい。

●国からの財政支援終了後の事業継続について、具体的な検討を行っていただきたい

○多くの医療従事者が継続復帰支援を利用し、ニーズに応じて独自の取り組み(ファミリーサポートなど)を展開し、地域をも視野に入れている。地域貢献面の成果も含め、女性医師支援に具体的成果が出ている。

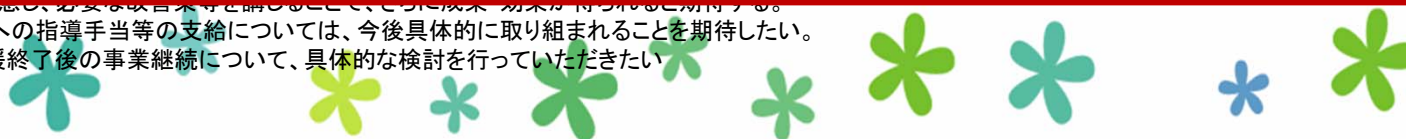
○夜間保育を週3日行っていることと、休日保育は重要。ベビーシッター券発行もユニーク。個別子育て相談、情報提供も有意義である。

○ホームページにおける女性医師復帰や子育て支援の情報が充実している。

○プログラムの自己評価表、アンケート調査等に見られる、事業改善体制、指導体制は評価できる。

○周産期医療の充実や女性医師継続・復帰支援のみならず、地域との協働を果たし、一定の効果をあげていることは素晴らしい。住民の医療への理解にもつながっている。

また、以下の点に留意し、必要な改善策を講じることで、さらに成果・効果を得られることを期待する。
●周産期関係医師への指導手当等の支給については、今後具体的に取組まれることを期待したい。
●国からの財政支援終了後の事業継続について、具体的な検討を行っていただきたい





ファミリーサポートの構築

平成21年度
ニーズ調査
広報

平成22年度

ファミリーサポート室開設
提供会員育成
保育サービス講習会・スキルアップ研修会
市民公開講座(全体研修会)・全体交流会

平成23年度

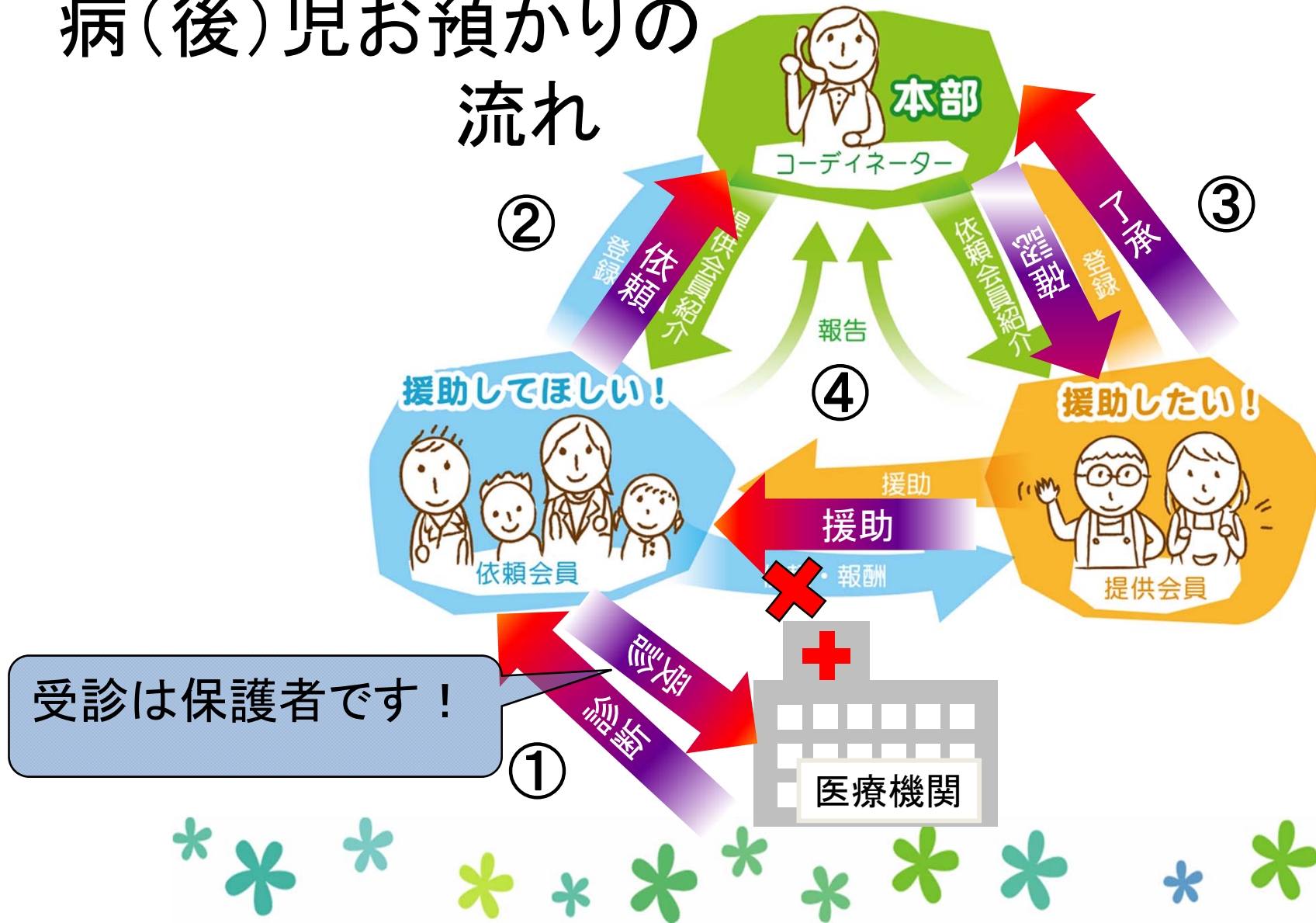
依頼会員募集
一時預かり保育サービス提供
市民公開講座・中間報告

平成24年度

病(後)児保育・お泊り保育サービス提供
認知度 & ニーズ調査



病(後)児お預かりの流れ



地域

ファミリー・サポート・センター

【活動者】活動必要な研修を修了した一般市民（提供会員）
【活動場所】利用者の自宅あるいは提供会員自宅

病児保育室・病後児保育室

【保育者】専門家（保育士、看護師、栄養士、医師等）
【保育場所】病院・診療所、保育所等に付設された専用スペース、施設

医療機関



①ファミリー・サポート・センターの特長

- 家庭的な雰囲気の中で1対1の預かり
- 地域の中での支え合いの風土や子どもの見守り環境の醸成
- 普段から預かってくれる顔なじみの会員が、子どもが病気の時でも預かり・送迎をすることができる

子どもの病状・性格によって2事業の使い分けが可能

②病児・病後児保育室の特長

- 専門家（保育士、看護師、栄養士、医師等）による保育看護が受けられる
- 専用施設およびスペースでの保育看護が受けられる

提供会員の継続的な研修と実践の積み重ね

③ファミリー・サポート・センターと病児・病後児保育室の連携による将来的に期待できる効果

提供会員による『代理受診』と『病児・病後児保育施設までの送迎』を実施

連携

病児・病後児保育施設での保育看護

より回復した子ども(例集団保育に戻るまで数日経過観察が必要な状態等)の預かり・送迎などを実施

連携

急性期あるいは回復期の子どもの病児・病後児保育施設での保育看護



ファミリーサポートの構築

平成21年度
ニーズ調査
広報

平成22年度

ファミリーサポート室開設
提供会員育成
保育サービス講習会・スキルアップ研修会
市民公開講座(全体研修会)・全体交流会

平成23年度

依頼会員募集
一時預かり保育サービス提供
市民公開講座・中間報告

平成24年度

病(後)児保育・お泊り保育サービス提供
認知度 & ニーズ調査

平成25年度

26年度以降の事業計画策定



今後の構想

